

日本語による  
近代ギリシャ文学・語学文献目録 (7)

佐藤 りえこ・橘 孝司

秋山 健

(1972) 訳：「セフェリス詩抄」『ノーベル賞文学全集 24 G・ミストラル他』  
荒井正道他訳、主婦の友社

◆『わが歴史の神話』より「使者を」「洞窟のなかに さらにもう一つの泉があって」「私は大理石の頭像を手にもってめざめた」「アルゴ一号の人びと」「われわれは 彼らを知らなかった」「西へ向かって 海は山脈と交わる」「一体 何を求めて 旅立つのか われらが魂」「港は古く 私 はもはや待つことはできない」「われわれの故郷は 囲まれた土地 ...」「時として 君の血は ...」「海の中のびん」「光の中の 三羽の赤い鳩は」「眠りは 樹のように 緑の葉でおまえを包む」「名はオレステス」「アスチュアナクス」「私の胸に傷が再び口を開く」「この巡礼の旅に出掛けて ...」「我々の前を おびただしいものが ...」「わずか かなたに」「ここに海の営みは終わる ...」、『詩集』より「ミケネー」、『練習帳』より「水夫ストラティス 一人の男を描く」、『航海日誌一』より「流浪者の帰郷」「アシネーの王」、『航海日誌二』より「アフリカゆりに囲まれた水夫 ストラティス」、『つぐみ号』より「みだらなエルペノール」、『航海日誌三』より「ヘレネー」。

シェル・ストレムベリイ「イオルゴス・セフェリスに対するノーベル文学賞授与の選考経過」、アンダーシュ・エステルリング「イオルゴス・セフェリスに対するノーベル文学賞授与に際しての歓迎演説」、セフェリス「受賞演説」「受賞記念講演 現代ギリシアの伝統についての若干の覚え書」の翻訳、及び「人と作品」「著作目録」を含む。

*Τον άγγελο and 19 poems from Μυθιστόρημα, Μυκήνες, Ο κ. Σπράτης περιγράφει έναν άνθρωπο, Ο γυρισμός του ξενιτεμένου, Ο βασιλιάς της*

*Ασίνης, Ο Σατράπης θαλασσινός ανάμεσα στους αγαπάνθους, Ο ηδονικός  
Ελληνωρ, Ελένη.*

荒木 英世

(1998) 「日本國及希臘國間修好通商航海條約締結について  
—100周年に際して—」『エーゲ海学会誌』12, 8-26.

井浦 伊知郎

(1997) 「Arvanitikaにおける動詞句の構造について —北東アッティカ・ポイオ  
ティア地方のアルバニア語を対象として—」『プロビレア』9, 16-27.

井川 幸子

(1998) 訳：マピリス・ロレンゾス「祖国」『エーゲ海学会誌』12, 32-33.

◆ Λορέντζος Μαβίλης, *Πατρίδα*.

池澤 夏樹

(1995) 第3部「ギリシアの生活」第3章「今日の文化—文学」『読んで旅する  
世界の歴史と文化 ギリシア』西村太良監修、新潮社

◆ ヨルゴス・サラングリス「花嫁」の訳を含む.

石田 ジョン啓

(1998a) 訳：ΟΔΥΣΣΕΑΣ ΕΛΥΤΗΣ: ΤΟΥ ΑΙΓΑΙΟΥ – η μετάφραση, η σύγκριση  
μεταξύ τα νεοελληνικά και τα αρχαιοελληνικά και τα υπομνήματα –  
『東北学院大学論集（人間・言語・情報）』119, 87-122.

◆ オデュッセアス・エリテイス「エーゲ海の…」の翻訳、注釈.

(1998b) 訳：ヨルゴス・セフェリス「16の俳諧」I —非在への巡礼—  
『東北学院大学論集（人間・言語・情報）』120, 33-84.

◆ Γιώργος Σεφέρης, *Δεκαέξι Χαϊκού Α΄*.

(1998c) 訳：ニコス・カザンツァキス『日本と中国の旅』  
『比較文化研究』（日本比較文化学会）39, 11-16.

◆ Νίκος Καζαντζάκης, *Ταξιδεύοντας Κίνα - Ιαπωνία*.

井上 浩一・栗生澤 猛夫

(1998) 『ビザンツとスラブ』中央口論社 ◆ビザンツ民衆文学「アルムリスの歌」「ベルタンドロスとクリュサンツァ」への言及あり。

櫻片 道枝

(1998) 訳：ヤーニス・ブラフォヤーニス「貧しさの末に」『エーゲ海学会誌』12, 43-48 ◆ Γιάννης Βλαχογιάννης, *Της φτωχειάς τα στέργα*.

佐藤 りえこ

(1997) 「セフェリスの中の雲について - 『ヘレネー』を中心として -」『プロピレア』9, 69-70.

(1998) 訳：「セフェリス作『ヘレネー』」『エポス』（木魂社）17, 16-24  
◆ Γιώργος Σεφέρης, *Ελένη*. 「解説」を含む。

鈴木 敦也

(1964) 「ギリシアの生活と文化 - 伝統の重みにおしひしがれたかのごとく -」『世界地理風俗体系 15 イタリア ギリシア』誠文堂新光社, 339-353.

◆「純正語、民衆語」という訳語の提唱者による 50 年代半ばから 60 年代半ばのギリシアの生活文化の概説。言語問題と文学に関する章を含む。

(1997) 「わが愛するギリシャ俚諺百選」『プロピレア』9, 28-42.

高久 暁

(1998) 訳：リチャード・クロック『ギリシャ近現代史』（ケンブリッジ・コンサイス・ヒストリー・シリーズ①）新評論。

橘 孝司

(1997a) 「日本語と現代ギリシャ語の時間表現対照研究」

『広島大学留学生センター紀要』8, 51-62.

(1997b) 「言語によるカテゴリー化の通時的変遷 - ギリシャ語の意味基準「上方の接触・非接触」を素材に -」『プロピレア』9, 1-15.

千葉 政助

(1998) 訳：メネラオス・ステファニディス「ステファニディス兄弟のギ

リシャ神話『神々の歌』－アプロディーテー』『エーゲ海学会誌』12, 34-36 ◆ Μενέλαος Στεφανίδης, *Το τραγούδι των θεών (Αφροδίτη)*.

中井 久夫

(1997) 訳：「ヨルゴス・セフェリス『ミシストリマ』より」『プロピレア』 9, 73-89 ◆ Γιώργος Σεφέρης, *Μυθιστόρημα* 「訳者ノート」を含む。

西村 太良

(1995) 第1部「社会と国家」第2章「言語」『読んで旅する世界の歴史と文化 ギリシア』西村太良監修、新潮社 ◆その他「民族」「ギリシア正教」「自然と産業」「歴史」「神話・宗教」「建築と集落」「美術・工芸」「音楽・舞踏」「思想・科学」「ギリシアと世界」「家庭生活」「社会・経済」「映画」等の章を含む。

西村 太良・手嶋 兼輔

(1995) 第2部「歴史と文化」第5章「文学・演劇」『読んで旅する世界の歴史と文化 ギリシア』西村太良監修、新潮社。

西村 六郎

(1997) 訳：C. M. ウッドハウス『近代ギリシア史』みすず書房  
◆ビザンツ期から現代までを扱い、文化史にも触れている。  
C.M. Woodhouse, *Modern Greece: A Short History*.

納戸 セキ子

(1998) 訳：ゾイ・ヴァラシ「《童話》魔法にかかったアーモンドの木」『エーゲ海学会誌』12, 37-42 ◆ Ζωή Βαλαση, *Η μαγεμένη μυγαλιά*.

広田 マリア

(1995) 『現代ギリシャ語60分』（マルチリンガルマラソン）アルク。

福田 千津子・片山 典子

(1998) 訳：ニコス・カザンザキス『キリストはふたたび十字架に』（上・下）恒文社 ◆ Ν. Καζαντζάκης, *Ο Χριστός ξανασταυρώνεται*.

本馬 信義

(1997) 「東京基督神学校におけるギリシャ語の授業風景」『プロピレア』9, 61-5.

村田 奈々子

(1994) 「クロード・フォリエルとギリシアの民衆歌」『ふらんす』3月, 49-50.

◆クレフティス歌謡「ブクヴァラス」「ディモスの墓」の訳を含む。

(1997) 「私とギリシア語のおつきあいのしかた」『プロピレア』9, 43-48.

山口 喜雄

(1997a) 「ギリシアの出版事情」『プロピレア』9, 49-52.

(1997b) 「世界陸上アテネ大会のギリシア語」『エーゲ海学会誌』11, 103-9.

(1998) 訳：ヴァシリス・ヴァシリコス「不思議なカップル」『エーゲ海学会誌』12, 49-51 ◆ Βασίλης Βασιλικός, *Ένα παράξενο ζευγάρι.*

渡辺 金一

(1983/84) 「ビザンツ文学—英雄詩『ディゲニス・アクリタス』(上・下)」

『プラティア』2, 1-7, & 3, 1-6 (プラティア・ミコノス会) .

◆コンスタンディノス・カヴァフィス「蛮族を待ちわびながら」、  
「ディゲニス・アクリタス」グロッタフェルラータ版の部分訳を含む。

K. Καβάφης, *Περιμένοντας τους βαρβάρους, Ο Διγενής Ακρίτας, Διασκευή Κρυπτοφέρρης.*